

■テーマ：滋賀で学ぶこと、滋賀で働くこと

■日時：平成27年12月19日（土）13:00～17:30

■場所：滋賀医科大学

■参加者：県内の大学関係者、学生、地域および自治体関係者など約150名

#### 《プログラム》

1. 開会挨拶
2. 学生支援事業の活動紹介
3. 基調講演 講師 <sup>たおだ かずし</sup> 埴田 和史 氏（滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門准教授。里親支援室長）  
演題 「県民とともに滋賀の医療の担い手を育てる、滋賀医大の取り組み」
4. 活動報告会  
第1会場【地域交流】の活動報告 7題（詳細は当日パンフ、チラシを参照）  
第2会場【調査研究】の活動報告 7題（ 同 ）  
第3会場【教育普及】の活動報告 6題（ 同 ）
5. 学内見学会「メディカルミュージアム」
6. 活動奨励賞発表

#### 【開会挨拶】

午後1時から、主催者を代表して本コンソーシアムの堀池喜八郎・代表幹事（滋賀医科大学副学長）があいさつを行い、続いてコンソーシアムの学生支援事業の活動紹介があり、滋賀県観光ポスター案の紹介と制作過程の説明がありました。



#### 【基調講演】



滋賀医大では、里親学生支援室、NPO 法人滋賀医療人育成協力機構を立ち上げ、卒業生が滋賀に定着してもらうために地域医療関係者などから里親・プチ里親を募集し、学生との交流を図っています。また、県内各地に研修旅行を実施して学生に地域の魅力を体験してもらったり、里親が講師となって地域医療の現場と働き甲斐を語ってもらうなどの活動を行っています。その結果、平成22年から26年までの医学科卒業生の滋賀県内就職率は42%でしたが、里親支援学生の県内

進路選択率は70%前後と高く大きな効果がありました。学生や教職員の地域への理解が進むと同時に、地域社会も大学を応援する姿勢に変わってきたと埜田先生は結ばれました。



### 【活動報告会】

続いて、「第1会場:地域交流」、「第2会場:調査研究」、「第3会場:教育普及」の3会場に別れて合計20プロジェクトの活動報告会が行われました。前年までは、「大学地域連携課題解決支援事業」と「学生支援事業」が会場を分けて報告されていましたが、今年は3会場で混合して発表され、活発な意見交換がされました。

#### ●第1会場：地域交流



#### ●第2会場：調査研究



●第3会場：教育普及



【学内見学会「メディカルミュージアム」】

活動報告会終了後、滋賀医科大学の学内見学会が催され、滋賀医科大学解剖学講座神経形態学部門の相見良成准教授の案内で、貴重な人体標本などを展示した「メディカルミュージアム」を見学しました。展示品の一部は、地域の小中高等学校等の授業にも貸し出しているとのことでした。

【活動奨励賞発表】

大学地域連携課題解決支援事業の発表について審査した結果、7団体が活動奨励賞を受賞し、本コンソーシアムの堀池喜八郎・代表幹事から代表者に賞状と記念品が手渡されました。



<活動奨励賞・受賞者リスト>

団体名	取組テーマ・名称
滋賀大学教育学部 石川ゼミ	「科学的知見と漁業者のローカル知の融合を目指した琵琶湖実習科目の展開
龍谷大学政策学部『政策実践・探究演習』守山プロジェクト班	「龍谷大学政策学部『政策実践・探究演習』守山プロジェクト:話し合いがまちを変える! 守山市民参加と協働による骨太の地域づくり参画プログラム」
草津市教育委員会文化財保護課 立命館大学工学部建築都市デザイン学科	「市内に残る歴史的建造物について、今後の保護対策や活用のための資料を得ることを目的に実態調査をおこなう」
大津市産業観光部農林水産課 龍谷大学農学部資源生物科学科	「大津の特色を生かした地産地消推進モデルの構築」
立命館大学経済学部 金井ゼミ 甲賀市教育委員会歴史文化財課、甲賀市産業経済部観光企画推進室、甲賀市観光協会	「忍者を核とした地域資源と魅力の発掘」
長浜バイオ大学 CELL 部	「身近な科学のおもしろさを体験させる」
サークルワークス 龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科	「びわ湖大津の魅力発信! ステキな動画製作事業」

●基調講演の感想をご記入ください

- ・滋賀県の医療の現状を知ることができ、とても興味深く思った。
- ・県内医療に関する課題を通して、どのように県内の発展をはかっていくかという参考になった。
- ・医療と地域における問題が関連づけられており、地域に根づいたものになっていることを感じられた。
- ・学生に滋賀に残ってもらうための「里親」制度の取組にとても熱意を感じられた。
- ・滋賀県の医療の実態を知ることができた。県外に出て行く人を滋賀県に呼びよせるために様々な取組があったので、今後もそのような取り組みを続けてほしいと感じた。
- ・滋賀県の医療が危機的状況にあることを初めて知り、少し不安になった（一人暮らしなので…）。滋賀医大さんの”里親”制度については、医療のみならず、他にも参考になるのではないかと思った。
- ・いかに滋賀医大が地域に貢献しているかが分かった。
- ・医療の視点での地域に対する問題解決策というのも新鮮で興味深かった。
- ・幅広く、長く、問題意識、行動、をずっと実践されていて、聞きいってしまうほど興味深かった。
- ・自分たちは湖南地域を中心に活動していたので、滋賀県 or 別の地域の現状を知ることができてよかった。
- ・地域交流が密に行われており、この取り組みを他大学も行えばとてもよくなると感じた。
- ・滋賀県がかかえている医療面での問題を知ることができてよかった。また、それに対する取り組みとして、里親プロジェクトが興味深かった。
- ・普段体験できないものを体験できてためになった。
- ・学生と地域の関係について、深く考えさせられた。
- ・滋賀の医療の現状をそこまで知らなかったが、滋賀に残るメリットがないということがあるので、このような状況を抜け出す事業を医療を生かした面から取り組んでおられるのだと知った。
- ・滋賀県の医療の現状を少しでも知ることができ、医療不足に驚いた。里親制度は、滋賀の魅力を広め、滋賀の医療を活性化させる良いものだと思った。
- ・医科大学ならではの取組で、話がとても分かりやすかった。
- ・埜田先生のお話の上手さと、熱意が伝わった。内容も興味を引かれるもので、聞き入ってしまった。
- ・滋賀県に医者がこんなに少ないとは知らなかった。また、滋賀医科大学で行われている取り組みも詳しく知る事ができ、とても良かった。
- ・滋賀医大で取り組まれている活動について初めて知り、県内から医者を減らさないための努力を惜しまずにされていて、すごいなと感じた。
- ・非常にわかりやすく時にはおもしろくご説明下さり、聞いていて改めて滋賀の良さに気付けた。私は生まれも育ちも滋賀なので、より「滋賀で働こう、住み続けよう」と強く思った。
- ・滋賀医大で学んだ学生が、卒業後も滋賀にいてもらうため、里親という取り組みをしていることが分かった。良いと思った。
- ・私は京都在住だが、隣にある滋賀県があんなに雪が積もるとは知らなかった。
- ・里親支援事業について、とても興味深く聞かせていただいた。滋賀医大ならではの取組だが、別の職業にもこういった仕組みが活かせられると、より定住につながる感じた。
- ・草津では医師不足を感じることはなかったので、滋賀県全体の医療の現状を知る良いきっかけになった。
- ・非常に具体的な内容で、成果もしっかり出されており、聞いて良かった。
- ・隣接する龍谷大学瀬田学舎に通う学生たちにも聞かせたい。地域医療の現状が聞くことができてよかった。
- ・活動の背景、内容を丁寧に説明していただいだけ、面白かった。

- ・滋賀の医療の担い手を育てようとする取り組みに感銘をおぼえた。
- ・興味深い話だった。基礎研究分野で過ごしてきたので、地域、住民に喜ばれる研究・活動に新鮮さを感じた。
- ・滋賀県内の実情と滋賀医科大学のすばらしい取組に感激した。さらになんぼっていただきたい。
- ・とても素晴らしい取組で、県内に所在する大学が同様の取組を展開することが出来れば、どれだけの県外出身者の定住を図れるかと期待できるものだった。しかし、医大さんのように医師・看護師という、地元県民に望まれる資格を有する人材を輩出される大学であるがゆえに成功事例となりうるのではないかという思いもあります。
- ・医師不足解消という本県の課題解決につながり、滋賀医大開学の目的を体現する非常に素晴らしい取組だと感じた。
- ・大変よい寄り組みで効果があることもわかった。

●活動報告会で、印象に残った発表（団体）があれば、教えてください。

## 1. 【地域交流】

《学生支援事業・チーム湖南》

- ・学生視点でわかりやすく同感しやすかった。
- ・これからの滋賀県をどのようにPRしていくのか、学生から発信していくには…など、県外から通学する学生の滋賀県への思いが良く伝わったので！

《琵琶湖側の農業従事者との交流事業》

- ・草津が特産地であることを知らなかったので面白かった。
- ・内容が興味を引かれるもので、CMを自分達で作ったり、試食会をしたりなど、積極的な活動がすごいなと思った。
- ・学生側から見た農業に関心があった。

《高島市マキノ地域における集落活性化事業／立命館大学》

- ・とてもわかりやすい発表で、内容がスムーズに伝わった。

《科学的知見と漁業者のローカル知の融合を目指した琵琶湖実習科目の展開／滋賀大学教育学部》

- ・言われてみれば、滋賀＝びわこなのに、びわこのことはよく知らないなあと、そこに着目するのはおもしろいと思った。

《長浜市北部地域における地域資源の再発見と魅力発信／滋賀文教短期大学》

- ・“食”“和菓子”という学生にとって身近なテーマに取り組んでいて、とても聞きやすいプレゼンだった。スイーツ醤油、とても興味が湧いた。
- ・自分も近くに住んでいるが、過疎化が深刻な問題になりつつも、魅力的な店舗などがあるということを知ることができた。

《科学(Science)を通じた地域交流／長浜バイオ大学 Entrance to Science》

- ・きちんと活動について反省をしているところ。

## 2. 【調査研究】

《市内に残る歴史的建造物について／立命館大学理工学部建築都市デザイン学科》

- ・歴史的建造物を研究対象としていて、地道な研究に感心した。

《休耕田の有効活用～可能性の検討／東近江市》

・蒲生スマートインターチェンジの周りの土地の有効利用ということであったが、そもそも無駄な土地を買収する必要はなかったはずであり、市の失敗を、美化した発表をすべきではないと思った。

《忍者を核とした地域資源と魅力の発掘／立命館大学金井ゼミ》

- ・絵があってどのような商品化するか想像しやすく、一番実現できそうだと思った。（甲賀市のアニメとか）
- ・地域おこしに直ぐに役立てることができそう。

### 3. 【教育普及】

《身近な科学のおもしろさを体験させる／長浜バイオ大学 CELL 部》

- ・今年から活動が倍になったということで成果が表れていたから。
- ・子供にむけた興味が持てそうな内容であり、取組数も増加していたのが印象に残った。

《びわ湖大津の魅力発信！ステキな動画製作事業／サークルワークス》

- ・動画を実際に観させてもらったが明るく楽しいものだったから。
- ・内容がおもしろかった。

《「カミッシュ」づくりと啓蒙活動／滋賀短期大学》

- ・拍子木など印象的なパフォーマンスを含んでいたため。ただ、“啓蒙”という言葉はあまり使われない方がよいと思います。

《学生支援事業・チーム湖東》

- ・アイデアが現実的だった。住み続けたいと思ってもらうためのアイデアがよかった。
- ・滋賀に住み続けってもらうため、滋賀の良いところをアピールすることが大切。学生目線の意見があって良かった。
- ・取組テーマ自体がとても関心あり、また、提案内容がとてもすばらしいと思った。
- ・5 大学（短大）が協力して取り組まれた点、提案まで持って行かれた点が良かった。チーム湖西ともリンクされるとよいですね。

●環びわ湖大学地域交流フェスタに対するご意見やご希望がございましたら、自由にご記入ください。

- ・アクセスをもう少し詳しく書いておいてもらえるとたすかります。
- ・学生が考えたことを、本当に県の方で話し合っていたら、滋賀をより良い方向へと進めていただきたい。
- ・数値として成果がみえにくいものもあると思うが、ひきつづき応援して欲しいと感じた。
- ・各種のプロジェクトに関わった大学の関係者だけでなく、対象となった地域の方々の声や姿が見える発表内容となるとよりよいのかなと思った。
- ・フェスタ（活動報告会）の開催は、年明けでも良いかと思えます。活動の深化、準備にできるだけ時間をかけさせてください。
- ・自主的な活動で構成されることを希望します（押しつけではなく）。
- ・今後も続けてほしい。
- ・これからも大いに発展させてほしい。